

目的・方法 西欧の18世紀末頃から女性向きの雑誌のなかにモード画や服飾に関する記事が見え始め、時代が下るにつれ雑誌の種類も多くなる。服飾の研究の場合、モード画はかなり利用されているが、記事の紹介は比較的少ない。そこで雑誌の記事を主な資料として、19世紀半ばのバリの男女の服飾について検討したい。特に「優雅(élégant)」とか「みごと(ravissant)」とか「優美(gracieux)」などと形容されている場合が多いので、その具体的な服飾をみることにした。それは季節によっても変化するが、季節と女子の服飾の関係については既に報じたので(註)ここでは省略する。

結果 近世の服飾に共通に求められた美しさに「優雅」があるといえるが、仏大革命以前と以後ではその表現するところが変わってきている。殊に1830年代40年代には衣服の生地や仕立てや装飾品のえらび方、衣服の組合せ、着装などへの細かい配慮が求められている。それは男女に共通するところである。男子の場合は、特にこの時代に、着装のいわゆるT.P.O.が確立したようでもあり、上衣類やジレの組合せにもエレガンスな着方があり、ハンカチや手袋、ステッキなどにも注意が必要とされた。また女子においても時と場合に応じたローブがあり、それにそえるスカーフやショール、帽子、髪飾りもおろそかにできない。また、雑誌記事の中には、当時のバリの服飾関係の店と品物を紹介している例もあり、有名店の品物も欠かせぬものようである。

(註) 19世紀ロンドンのファッション — 雑誌にみる女子服飾の季節感 — (学習院女子短大紀要26号、1988年12月)